

技術専門校の現状と課題

1 役割分担

	新卒者	求職者	在職者
県	◎	○	○
ポリテク		◎	○
認定校	—	—	◎

◎：主に実施 ○：付随的に実施 —：制度上なし

2 入校状況

【過去3年間に定員充足率が5割を下回った普通課程】

(単位：%)

校・科名	25年度 (平均 84.5)	26年度 (平均 72.4)	27年度 (平均 71.9)
長野・画像処理印刷	80.0	46.7	40.0
長野・木造建築	80.0	40.0	45.0
松本・電気建築設備	73.3	70.0	43.3
岡谷・ものづくり技術	40.0	60.0	60.0
飯田・木造建築	70.0	40.0	40.0
伊那・メカトロニクス	55.0	40.0	—

3 就職状況

【過去3年間に就職率が8割を下回った普通課程】

(単位：%)

校・科名	24年度 (平均 85.7)	25年度 (平均 91.9)	26年度 (平均 91.4)
長野・画像処理印刷	30.8	66.7	66.7
長野・木造建築	77.8	100.0	100.0
松本・建築設備	62.5	100.0	—
佐久・生産（技術）システム	50.0	84.6	100.0

4 職員の状況

(単位：人)

職名	定員	現員
校長	7	7
訓練指導員	41	33
事務職員	16	16
臨時的任用職員	0	5
計	64	61

(※民活コーディネーター等を除く)

5 運営費（H26 決算額）

（単位：千円）

区分	施設内訓練		委託訓練	計
	学卒者・離職者	在職者		
国補	240,265	0	0	240,265
国委	0	0	357,425	357,425
使用料等	31,610	7,163	0	38,773
基金繰入金	125,678	0	0	125,678
一般財源	383,049	22,358	0	405,407
計	780,602	29,521	357,425	1,167,548

6 施設・設備の状況

（単位：千円）

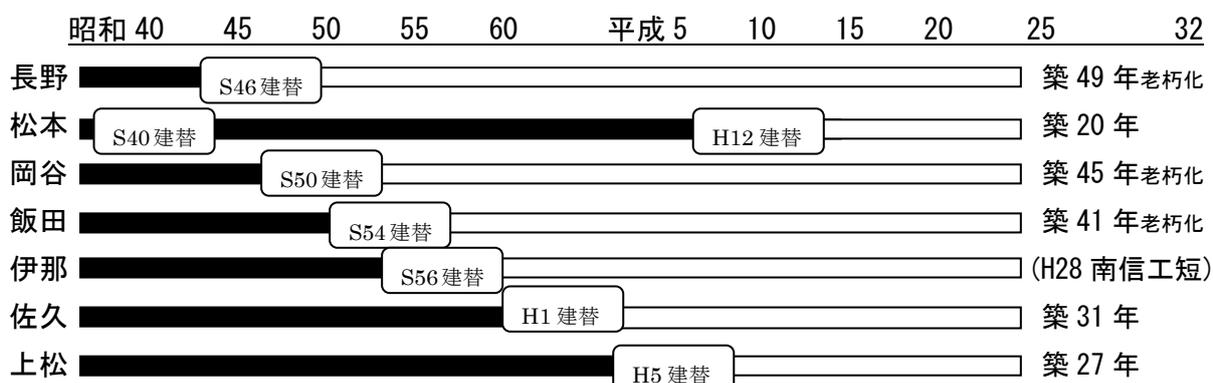
内 容	H22 予算	H27 予算
リース料	63,331	76,289
購入費	0	0
施設修繕費	12,975	8,895
計	76,306	85,184

訓練機器の整備費は5年前と比べて増加。直近3年間はほぼ横ばい。

平成 25、26 年度に、国の交付金（地域の元気臨時交付金）を活用し、12 台（263,336 千円）の機器を新規に購入した。

【施設の状況】

（10 次計画終了年での築年数）



7 離職者訓練（民間活用委託訓練）

H26 募集定員	入校者数	修了者数 a	就職者数 b	中退就職者数 c	就職率 (b+c)/(a+c)
1,509	1,259	1,119	818	57	74.4

（※工科短大の値を含む）

8 在職者訓練（スキルアップ講座）

H26 コース数	募集定員 a	受講者数 b	受講率 b/a
184	1,784	1,820	102.0

（※工科短大の値を含む）

9 課題

○校の配置、訓練科目・定員のあり方

- ・ 9次計画による定員の見直し 570人（H23）→395人（H28）
- ・ 定員充足率の低い訓練科目
- ・ 就職率の低い訓練科目
- ・ 拠点校（工科短大、長野、松本、伊那）、サテライト校（岡谷、飯田、佐久、上松）

○施設・設備の老朽化

- ・ 重要物品に分類される（160万円以上）訓練機器 128台のうち、耐用年数を経過した機器は 78台（60.9%）、うち、耐用年数の2倍を経過した機器は 43台（33.6%）
- ・ 10次計画終了時点（H32）で長野技専の建物について 49年が経過（昭和46年築）、その他の校も 20年以上が経過

○訓練指導員の育成・指導技法の継承

- ・ 訓練指導員 34名（55歳以上 12名、40歳未満 4名）、平均年齢 48.3歳

○高校における認知度の向上

- ・ 技専校を「知らない」 85.4%（高校生アンケート結果）
- ・ 「県内高校生へのより積極的な説明や案内」 22.1%（高校進路指導担当アンケート結果）

○指定管理者制度の導入

- ・ 9次計画における検討課題
- ・ 訓練の継続性及び質の確保が困難
- ・ ものづくり分野での訓練に特化しており、受託者の確保が困難
- ・ 現時点での導入は困難と判断
（他都道府県で導入しているのは、大阪府の事務系（IT、経理）訓練校のみ）